

第19回日本医療情報学会 春季学術大会
HELICS チュートリアル

医療情報における標準化の課題
— 集約された医療情報を活用するために —

病名における課題

北里大学メディカルセンター
村田晃一郎

コンピュータはコードで会話する

- 単語(コード)とその意味が共通でないと会話が成立しない。
- 傷病名をはじめとする各種コードの標準化が必要な理由
- 標準化が出来ていないので、辞書(マッピングテーブル)が必要となる
 - マッピングテーブルは世代管理が必須
 - 施設毎のマッピングテーブルを維持するためには、絶望的な労力が必要

病名とは何か

- 病気の名(大辞林)
- 病気をどう定義するか？(日本大百科全書)
 - － 正常状態からの逸脱
 - － 正常という概念そのものが不確かである
 - － 自然科学的に病気を定義するのは難しい
- ICD10 (WHO)
 - － 疾病及び関連保健問題の国際統計分類
 - 関連保険問題とは「傷害及び死因」
 - － 分類であって病気の名ではない
- 医療資源病名
 - － 医療資源を最も投入した傷病名
 - － DPCは、ICD-10による傷病名がベース

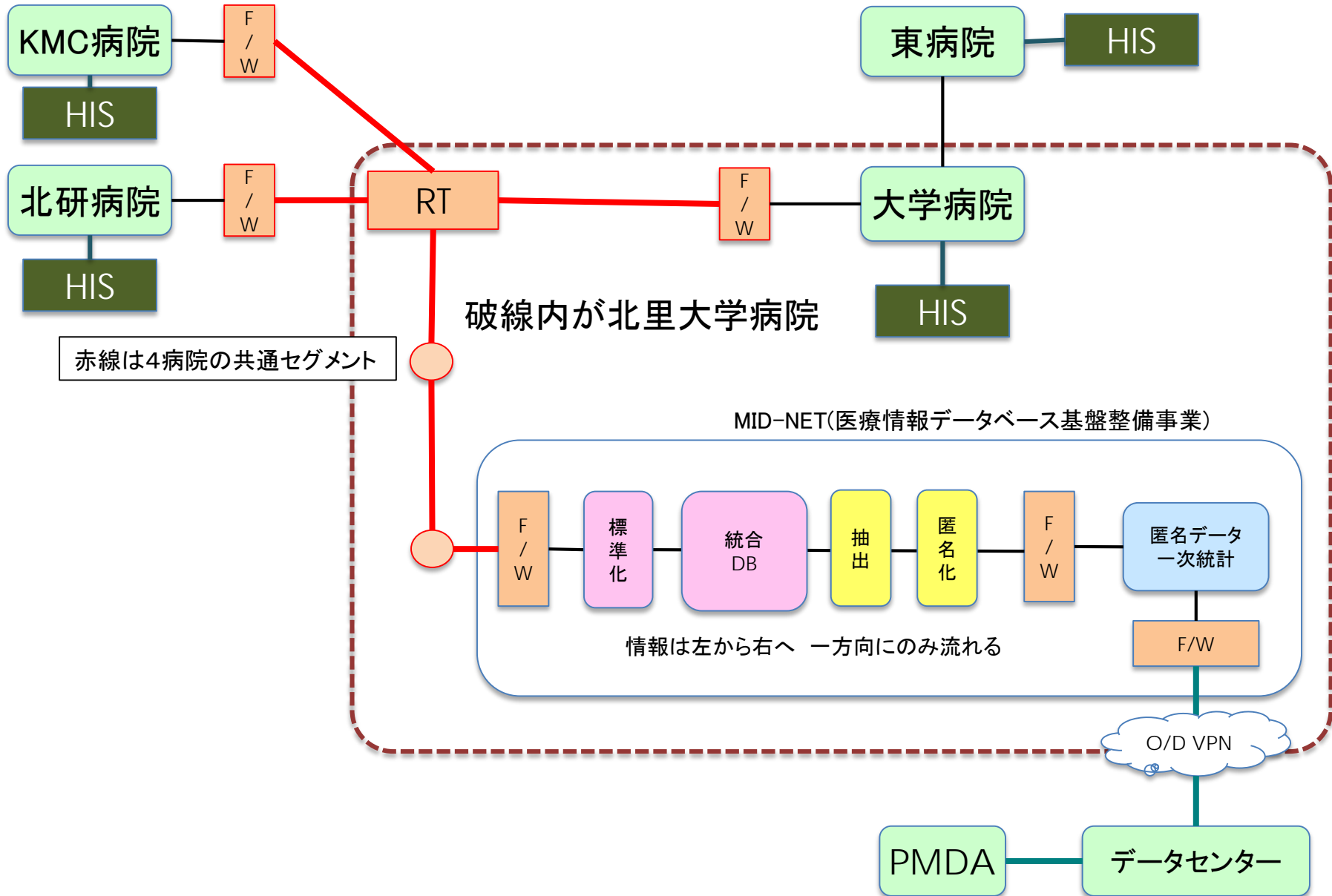
電子カルテ上での病名の取扱い

- 後日、電子カルテ上で診断病名（病名コード）を変更することが許されるか？
 - －「改ざん」と考える派
 - －「折衷案」を考える派
 - －「改ざんでは無い」と考える派
- ICD-10に適合しなくても、診療報酬の請求はしなければならない
 - － 運用上、独自病名でのカルテ記載と請求は必須
- 添付文書にあるが標準病名に無い場合

医療資源病名

- 医療資源を最も投入した傷病名
 - ✓ 一定の幅を持つ、「分類」や「範囲」
 - ✓ ICD や保険診療（処置手術等）のルールにおいてどのグループ（分類）に包含されるか、ということ
 - ✓ 分類粒度の問題はあっても、原則として分類不可能な傷病名や手術名は存在しない
(DPC/PDPS 傷病名コーディングガイド)
- 診断病名とレセプト病名？
- 解決策の一つ
 - 合成語病名のICDコーディングのルール化
(波多野賢二 東京大学生命工学研究センター)

北里大学 病院間ネットワークとMID-NET



北里大学グループにおける 病名の精度管理

- プログラム等、システム上の問題は少なかった
- 多くは、未コード化病名や独自病名の存在など標準化対応のレベルと方法に問題
 - 病名が足りない
 - 病名選択が面倒

北里大学グループにおいて生じた問題

- ICD10対応標準病名マスター採用への抵抗
 - － 標準病名マスター導入の阻害要因
 - 導入・メンテナンス時の労力とコストの問題
 - ベンダー提供の「電算処理マスター」を導入すれば労力もコストもかからない
 - 複数病院組織の意思統一における組織上の問題
- 各病院の病名マスターの問題
 - － 各病院で共通化されていない「独自病名」
 - － レセプト記入時の「フリー病名」
- 病名が無いと診療報酬請求が出来ない問題
- 電子カルテに登録した病名を後日差し替える機能がシステム上無い、という問題

ICD10対応標準病名マスターと レセプト電算処理マスター

- 標準病名マスター導入の阻害要因
 - HIS標準は、レセプト電算処理マスター
 - レセプト電算処理マスターはベンダー提供が原則、診療報酬改訂にあわせて提供される
 - 標準病名マスターは、年に4回程度改訂され、原則として病院がメンテナンス
 - コスト面、労力面からもレセプト電算処理マスター（レセ電マスター）が有利
 - 診療報酬請求にはレセ電マスターで十分
 - ただし、レセ電マスターでは病名が足りないので、未コード化病名が増える

北里大学グループにおける 標準病名への対応状況

- 北里大学病院(神奈川県)
 - ICD10対応標準病名マスター(MEDIS)
 - 独自病名あり
- 北里大学東病院(神奈川県)
 - ベンダー提供のレセ電マスター
 - 独自病名あり
- 北里研究所病院(東京都)
 - ベンダー提供のレセ電マスター
 - 独自病名あり
- 北里大学メディカルセンター(埼玉県)
 - ベンダー提供のレセ電マスター
 - 独自病名なし レセプト上のフリー病名あり

独自病名から標準病名への 変換可否調査

北里大学東病院の病院傷病名マスターに登録された独自病名

標準病名による置換可否	独自病名数
可	2085
不可	961
合計	3046

標準病名への変換パターン

- | | | |
|--------------|------|--------------------|
| (1) 表現違い | 91 | 肩関節周囲炎と四十肩 |
| (2) 基本病名＋修飾語 | 1709 | 視神経髄膜腫と視神経＋髄膜腫 |
| (3) 修飾語＋修飾語 | 77 | 手指基節関節痛手と手指＋基節関節＋痛 |
| (4) 細部違い | 92 | 虹彩欠損と虹彩欠損症 |
| (5) 基本病名2種以上 | 38 | 乳癌術後(後遺症)＋上肢浮腫 |
| (6) 漢字カナ違い | 32 | 脊椎変成迂り症と脊椎変成すべり症 |
| (7) 一致病名あり | 46 | |
| (8) 変換不可 | | |

母斑状黄色内皮腫、類洞性門脈圧亢進症
粘液産生性膵管内乳頭腫症と膵管内乳頭粘液性腫瘍

まとめにかえて

病名における課題の整理

- 「標準病名」適応への継続的な努力
- 各種病名に対する概念の再定義
 - － 病気の分類（診療報酬請求上の病名）
 - － 病気の名前（診療上の病名）
- 電子カルテ上で「病名（病名コード）を変更する行為」に対する指針の提示
- 標準病名では不足する場合の取扱い
 - － 例えば、合成語病名のICDコーディングなど